

社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局:北九州市門司区新原町12-27

関 口 興 洋 方 TEL·FAX 自宅 093-382-6436

携帯 090-8919-6776

発行人:秦 野 彦 編集人:関口興洋・伊藤久次郎

本山岳会 創立100周年記念式典·祝貨晚餐会



4子、キャメロンのから板倉健一、 ン・ロウ、藤田傳、、橋本健一郎、伊 溝部忠増の各氏 室津健次、秦野一彦、大城戸昌敏、日向5藤久次郎、片山俊昭、関口興洋、片山カナダ山岳会会長を囲んでの記念撮影。

日本山岳会創立100周年記念式典・祝賀晩餐会

式典に 1,141 人参加!

吉村健児前支部長、記念すべき受賞 小野一丸会員、山村康一会員 永年会員として顕彰

日本山岳会創立 100 周年記念式典・祝賀晩餐会が、去る 10月15 日、東京品川の新高輪プリンス ホテル「飛天」の間において盛大に開催され、北九州支部からは大挙17人が参加した。

No.11979 大城戸昌敏

○ 記念講演(947人出席)

午後1時から、山野井泰史氏の写真スライドを 交えての講演

日本を代表するクライマーで、南米フイッロイで大岩 壁の冬季単独初登攀、チョー・オユー南西壁の単独無酸 素初登攀等、朝日スポーツ大賞、植村直己冒険大賞を受 賞された偉業の講演に感動を覚える。

午後2時から、日本山岳会第16代会長(1989 年~1993年) 山田二郎氏の講演

若い新しい活力を絶えず会の活動の中に採り入れてい く事が重要であると力説された。

記念式典(1,141人出席)

午後3時30分から4時30分、平山会長の式辞に続き、 日本山岳会に対する功労者への感謝状贈呈と表彰で、団



体2社、個人3 人、支部2支部 が表彰される。

吉村健児氏表彰を受ける 者で

個人の中の1人は、長年にわたる日本山岳会への功労で、北九州支部の吉村健児氏 (No.3173) が受賞。永年会員顕彰には、総員13人のうち北九州支部の小野一丸氏 (No.4268) 及び山村康一氏 (No.4294) が顕彰された。

○ 祝賀晩餐会(970人出席)



祝賀晩餐会に出席された 皇太子殿下

午後6時から祝賀晩餐会が開かれた。皇太子徳仁親王殿下、元総理の橋本龍太郎会員をはじめ、来賓としてアメリカ、カナダ、中国、韓国、台湾、ネパール、ベルギー、コンゴ、ブータン、パキスタン、モンゴル、各国政府及び山岳会の方々がご参列された。

平山会長、文部科学大臣 (代読) に続きアメリカ山岳 会会長の祝辞が披露された。

各会員は、一テーブル10人で配置され、100年の 伝統にふさわしい厳粛で格調を重んじた運営を会員の 全員が心得、節度ある進行で祝宴が行われた。

北九州支部からの式典出席者 (17人)

03173	吉村 健児	04268	小野	一丸
04325	秦野 一彦	11427	日向	祥剛
11454	井上 祐	11977	溝部	忠増
11979	大城戸昌敏	13471	板倉	健一
13499	伊藤久次郎	13541	高畠	拓生
13643	関口 興洋	13722	藤田	傳
13738	片山 俊昭	13739	片山	礼子
13743	橋本健一郎	13986	室津	健次
13994	楠田 和彦			

(*山村康一氏は欠席)

日本山岳会創立 100 周年記念・北九州支部創立 5 周年記念山行記①

田本百名山 紅葉の日光 奥白根山・男体山 仲間 意識の強さを感じた山旅

特別寄稿 北九州支部会友 No. 12995 (北九392) 助 田 陽 一 (北海道支部) No. 12996 助 田 梨 枝 子 (北海道支部)

2泊3日の山行記 10月12日(水)晴れ 北九州支部と合流

未だ暗い早朝4時、車で新千歳空 港へ向かい7時到着。手続きを終え、 エア・ドウ12便に搭乗。機は定刻 8時離陸し羽田空港に9時30分着 陸。預けたザックを受け取り待ち合 わせ場所の空港第1ビルのモノレー ルホームへと急ぐ。参加の皆様とは、 初めてお会いする。大きな期待とは、 初めてお会いする。大きな期待とは、 初めてお会いするとのこと、程 しザックを受け取るとのこと、程 なく一行14名の方々はザックを背 負いホームへ下りて来られた。関口 CLに挨拶。私共を紹介してくれた。 個々の自己紹介は、後ほどというこ





日本百名山 「奥白根山」山頂にて

とでモノレールに乗る。浜松町でJ R山手線に乗り変え東京駅に11時少 し前に到着、上越新幹線ホームへ。 途中売店で昼食を調達する。勿論飲 物缶ビール付きだ。ホームでJAC 本部総務の平井喜久枝さんのお見送 りをうける。大事な式典を控え、大 変ご多忙のところなのに、お心遣い が有り難く、ただただ感謝の気持ち

右端二人が共同筆者 助田夫妻

で一杯だ。出発まで歓談。記念写真を撮る。「とき403号」は、二階建て、8両編成。我々は下の階の指定席に陣取る。11時40分東京駅を出発した。昼時でもあり、プシュプシュと缶の開く音、車中の宴は楽しく、アッという間に1時間25分は過ぎ、上毛高原駅に13時5分到着。この車中の小宴(酎太郎〈焼酎〉付)で、

私共の少しの不安は一掃された。そ

れは、さすが山を愛する方々、大き な温かい心で仲間に迎え入れてくれ たからです。

ペンション・コスモスのオーナー 萩原弘さんがマイクロバスで迎えて くれた。オーナーの案内で川場村の 老舗造り酒屋「永井酒造」(尾瀬の酒、 水芭蕉が有名?) 古新館へ直行、途 中道端の畑には、リンゴ、柿、栗な どの果樹園が点在する・・・美味し そう。13時47分造り酒屋に到着。 試飲コーナーは忽ち一杯になる。谷 川岳の銘柄もある。荷物になるので 購入は諦める。14時10分利根村に ある吹割りの滝へ。14時40分到着、 約1万年前片品川と栗原川の合流点 で生まれて上流へ浸食(後退)して 出来た渓谷と案内板にあった。50 分程見物散策し景色も楽しんだ後、 15時30分ペンション・コスモスへ と向かう。標高 1400 mにあるコス



モスに16時到着した。旅装を解き、 夕食まで一風呂浴びたり、応接間で 寛いだり、食前酒を嗜む方々と、そ れぞれ時間を過ごす。18時15分夕 食。オーナーご夫妻の心尽くしの料 理(洋食)と支部長差入れのお酒、 先程の酒屋で仕入れたその名も「谷 川岳」と「白岳」の耐太郎を頂き乍 ら、お天気祭り(注)を兼ねた宴は 大いに盛り上がるが、明日の山行を 考え19時30分お開きとなる。今朝 の早立ちの疲れで早く休む方、席を あらためて酒宴を続ける方と夫々で あった。

(注) 北海道支部は、前夜祭でお天気祭 りと称して酒を飲み大いに盛り上がる。

10月13日(木)快晴 <u>奥白根山登頂!</u>

高原の朝6時の気温は3℃とこの 秋一番の冷え込みで、初霜が降りた

との事。6時の朝食の後、支度を整え 宿のマイクロバスに乗り込み6時45 分出発。菅沼駐車場7時到着。登山案 内板には、標高 1740 m、標高差 83 8m。奥白根山頂上まで4.3 kmとあ る。いよいよ関東以北の最高峰、日光 白根山に登るのだ。準備運動のあと7 時10分出発する。7分程歩いた所に 弥陀ヶ池2.7 kmとの案内板がある。 針葉樹の多い登山路を進む。途中適宜 休憩を取り乍ら高度を稼ぐ。高度差15 0m~200m急坂を二つ乗り越え、2時間 程登った所に弥陀ヶ池0.5kmの道標が ある。北面コースの日陰の所に霜柱が 立っている。ほとんど台地状の登路を 進むとそこは弥陀ヶ池、9時33分到着。 高度計は2262mを指している。池越し に奥白根山がデッカク聳えている。さ すが以北最高峰だ、迫力が凄い。写真 を撮ったりと、9時44分迄少し長めの 休憩を取る。池の端の木道を渡り頂上 への急登に取り付く。登路はシャクナ ゲの群生地で、その中にあるナナカマ ドの赤い実が鮮やかだ。ゴツゴツした 山頂が目前に迫る。あと一息。岩峰を



右に回り込み頂上に到着、11時8分。 凄い眺望だ。雲一つ無い抜けるような 青い空、眼下に五色沼、弥陀ヶ池ほか

4つの沼が見える。北に燧岳、東に 男体山、西に武尊岳が。嬉しいこと に南に富士山が遠望できる。最高、 よかったア・・。頂上は他の登山客 で混雑状態、記念写真を撮り次の岩 峰へ急ぎ移動する。奥白根神社の祠 がある。登山の無事を祈り、この横 で昼食を取る。風邪も無く好天に恵 まれ絶景を楽しみながら飲む。宿で 調達のビールが美味い。小一時間ほ ど周りの景色を楽しみ過ごす。下山 の長丁場を考慮し、12時5分、前 白根山へと下りる。山頂直下の砂礫 の急斜面を慎重に通り過ぎるとシャ クナゲ、ナナカマド、針葉樹などの 樹林帯となり歩きやすい。五色避難 小屋へとピッチがあがる。13時8 分小屋到着。13時20分まで長めの 休憩を取る。高度差90mほどの急 坂を約20分で登り尾根筋へ出る。 前白根山まであと少し。五色沼分岐 13時56分。前白根山(2373m)到着1 4時10分。記念写真を撮り、湯元 登山口へと急ぎ行動を開始する。こ こでもシャクナゲの群落が見られる。 天狗平の道標14時48分通過。白根 沢の旧道を避け、外山尾根コースの 新道を下りることにする。これが凄 い急坂でコースも荒れており、杖を 頼りに一歩一歩とゆっくり下りる。

スキー場ゲレンデを横切り薄暗く なりかけた17時、登山口に無事到 着。湯元温泉街を通り抜け今日の宿 紫雲荘に 17時 35 分到着した。 19 時夕食となる。ほどよい疲れは、天 候に恵まれた山行、素晴らしかった



本百 名山 「男体山 山 頂にて

日

眺望と適度のアルコールが癒してく れ、宴席は今夜も大いに盛り上がる。 ビール、日本酒、酎太郎の瓶が空にな った。席を替え小宴は和やかに続く。 持ってきた飲物が底をつき23時就寝。

10月14日(金) 快晴 男体山登頂!

心配された天候も良く、朝食前に散 策に出られた方もおられた。6時45 分朝食を済ませ、支度を整え旅館のボ ンゴ車とジャンボタクシーに分乗7時 20分出発する。暫く走ると美しい力 ラ松の人工樹林の林道になる。林道登 山口7時42分到着。準備体操のあと 7時55分志津小屋へ向かう。二荒山 神社志津宮の横にある志津小屋8時3 分出発。針葉樹林帯の登山路は整備さ れているが、風倒木が所々登山路を塞 いでいる。腰をかがめたり跨いだりと 苦労する。1合目を8時12分に通過 するが既に5~6回このような状況が 繰り返され先が思いやられる。4合目 で2回目の休憩、8時53分~9時。 角木材の道標は古く、字も薄く見落と し易いので注意しながら登ることにす る。登るにつれて倒木も無くなり歩き 易くなる。7合目手前の登山路の左手 が大崩落している所を通過し、少し登 ると固定ロープが張ってある7合目到 着9時54分。ここまで約2時間と順 調に登高している。また7合目あたり から樹木の丈が低くなってきて見通し が良い。右手の後方に分かり易い燧岳 が、西に奥白根山が見える。だんだん と眺望が良くなってきた。8合目は見 落としたが最後の急坂を登り切ると台 形状の山頂部の北肩に出る。ここに9 合目の道標がある。時間は10時46 分を指している。ほぼ平らな山頂部を 7分程進むと頂上だ。大きな岩に太刀 が立っている。三角点にタッチ 11 時 3分。ジャスト3時間で登ったことに なる。スゴイ・・・。山頂の太刀と二 荒山大神像の前で日本山岳会北九州支 部旗を中心に記念写真を撮る。眼下に 中禅寺湖、戦場ヶ原が、目の前に奥白 根山、遠くには会津の山々と360度 の眺望だ。富士山が見えないのは残念 だが、しかし湖と山々の景観は素晴ら しいの一言。昼食を取り乍ら景色を十



最後の下山口、男体山 中禅寺湖二荒山神社に到着

分に堪能する。12時下山開始、正面 登拝コース、標高差1200mの下り である。山頂部の砂礫帯を15分程下 ると樹林帯に入る。登山路は木道が 設置され危険箇所には迂回路がつく られている。さすが信者の上る登山 路、良く整備されている。8合目に は、岩の間に祠と滝尾神社が建って いる。5合目の避難小屋を少し下っ た所で長めの休憩、14時30分。1 0分ほど下った所が4合目で石の鳥 居が建っている。舗装した道を歩き 3合目へと向かうが、一曲がりした あたりに樹林帯に入る小道を見つけ 下りると3合目に出た。あとは樹林 の中についている登山路を一気に下

る。二荒山神社中宮 登山口15時38分到 着。予約しておいた マイクロバスに乗り 15時43分出発。日 光いろは坂を通り、 東武日光駅 16時 20 分到着。駅前広場に は日本一の名水と標 高 543 mの標識が立 っている。東武日光 駅 17時 19 分発の電

車に乗る。一つ隣りの下今市駅で 特急きぬ134号に乗り換える。浅草 駅まで約1時間40分、缶ビールを飲 みながら、楽しく歓談するうちに、 19時15分浅草駅に到着。北九州支 部参加の皆様とはここでお別れした。

今度の山行に、私共を心よく仲間 に加えて下さいました北九州支部の 皆様に厚くお礼申し上げます。

2日間の山行は計画通りに行動す ることが出来ました。これは北九州 支部14名の仲間意識の強さを感じ ました。良い経験をさせて頂きまし た。有難うございました。

(写真は、奥様の助田利枝子さん

奥白根山・男体山登山の参加者

11979大城戸昌敏、11990 原 広美、12995(北九392) 助田陽一(北海道 支部)、12996 助田梨枝子(同)、13499 伊藤久次郎、13541 高畠拓生、 13643 関口興洋、13722 藤田 傳、13738 片山俊昭、13739 片山礼子、 13743 橋本建一郎、13986 室津健次、13994 楠田和彦、14051 三木靖子、 北九359 八木國子、北九389森本信子 以上16人

日本山岳会創立100周年記念・北九州支部創立5周年記念山行②

奥白根山、男体山山行に参加して

酎太郎になってしまった飲んべえたち

No. 13739 片 山 礼 子

10月12日 (水) 北九州空港 (8: 15発)から羽田空港(9:45着)、モ ノレール、JRと乗り継いで東京駅へ、 北海道の助田夫妻と合流、昼食用に弁 当とプラスαを買って全員新幹線乗り 場へ、日本山岳会の平井喜久枝さんが 見送りに来て下さってました。

11時40分発の上越新幹線で上毛 高原駅へ向かいました。それまでは、 ごく普通の山行メンバーだったのです が・・・・・

車中で、昼食が始まろうとしたとき、 藤田傳さんが「しばらく飲んでないか ら」の一言から車内は、一変してしま ったのです。ビールが終わると傳さん のザックから焼酎(酎太郎)とお湯が 出てくるのです。すると皆さん何故か マイカップがさっと出るのです。もっ てない人には紙コップまで出るし、お 湯がなくなると、今度は傳さんおもむ ろにザックから冷たい水(ペットボト ルに水を凍らせて持ってきているので

す)を出すのです。用意周到、今回参 加したメンバーには、恐怖の耐太郎軍 団がいたのです。リーダーの関口さん からもう下車する時間だといわれるほ ど、車内は盛り上がりました。



上毛高原駅に着くと、今夜泊まるペ ンション・コスモスの車が迎えに来て くれてました。途中、酒蔵見学(もち ろん試飲) と吹割ノ滝を見学して、今 夜の宿へ、その夜も酎太郎は助田夫妻 の差し入れの男山や持参の焼酎を夜遅 くまで飲んでいました。

10月13日 (木) ペンションの車に 送ってもらって、菅沼登山口へ準備体 操をして7:10出発、周りはかなり冷 え込んでいて、花の時期に来たらお花 畑だったのだろうと思う一帯は、霜で 真っ白い花を咲かせていました。笹原 を過ぎ尾根の急登をシグザクに登って、



平坦なところを過ぎると樹林帯の急登、 座禅山の裾あたりから木道になって、 弥陀ヶ池(9:35)がひょっこり現れ ました。このあたりはシラネアオイの 群生地だったらしく、今は保護のため (鹿の食害で激減したそうです) 電気 の網が張り巡らされていました。七色 平分岐より急登、11:05 奥白根山着、 山頂付近は岩峰だった。空は雲一つな い真っ青な空、山頂からの360度の パノラマ、富士山まで見ることが出来 ました。少し下ったところで、昼食、 ここでも耐太郎 1、2、3・・・? は、 昨夜の残りの男山や黒白波などをザッ クに詰め込んで登ったので、「荷物が重 い少し荷を軽くしなければきつい」な どと言いながら飲んでいました。12:00

前白根山に向かって出発、砂礫の急な 下りを滑らないように慎重に下り、避 難小屋13:10着、ここから前白根山へ と登る途中、奥白根山の岩峰の崩れた ところが良く見え山の雄大さをかもし 出していました。五色沼、前白根、避 難小屋三叉路(13:55)を過ぎ、急登 を登りきると前白根山(14:10)、天 狗平 (14:50)、ここから湯元温泉へ の下りは、樹林帯の登山道だが、道が 荒れていて足元も悪く急な下りの連続、 今夜泊る湯元方面が時々見えるけど、 谷が深くなかなか辿り着かない。湯元 登山口 17:00 着、そこから今夜泊る紫 雲荘まで徒歩で、宿の湯は乳白色の私 好みの温泉でした。夕食も酎太郎たち は、元気がいいのです。その夜も二次 会と言って部屋で遅くまで飲んでいま した。

10月14日宿から宿の車とタクシーに 分散して志津乗越登山口まで行き、



7:50から登山開始、志津小屋は、ロ グハウスの立派な建物でした。9合目 付近まで石楠花がたくさんありました。 ここの石楠花は目線より低いので、花 の時期はすごくきれいだろうと思われ

ます。七合目あたりはかなり崩落して いました。酎太郎たちは、今日は電車 に間に合わないといけないので、昼は 飲まないことにしようと話しながら登 っていましたが果たしてその話が本当 かは定かではない。男体山山頂は広く 二荒山神社奥宮が祭られ、刀剣が天に 向かって突き刺さっていました。(11: 00着)、ここで昼食12:00から二荒 山神社に向かって下山開始、この下り もうんざりするほど長かった。四 合目 (14:42) から三合目までは林道 で、その後はまた山道となった。二荒 山神社(15:35)着、予約のバスが 待ってくれていました。中禅寺湖のと ころの酒屋でビールを調達、東部日光 駅16:00着。17:19発の電車に乗り 次の駅で乗り換えて特急きぬ134号 にて浅草 (19:15) まで、車中でもも ちろん酎太郎たちは飲んでいました。 浅草で助田夫妻と別れ、雷門の仲見世 見学、夕食を済ませ宿泊先の福岡会館 へ向かいました。その夜も酎太郎たち は飲んでいました。

酎太郎が何人いたのかご想像におまか せしますが、耐太郎たちの笑顔がよく 心和ませてくれました。リーダーの関 口さん、サブリーダーの原さんそれに 参加された皆様楽しい山行ありがとう ございました。

(写真は助田利枝子さん提供)



前白根山にて 間から遠く燧岳が見える

紅葉訪ねて百名山(自筆) 藤田 傳

西中国山地「奥匹見~高岳」開通記念

広島支部記念登山大会に参加

No. 14079 内 藤 正 美

トル)での記念撮影 - 広島支部メンバーを交えて、高岳山頂(標高一、〇四五 - 広島支部メンバーを交えて、高岳山頂(標高一、〇四五



9月18日広島支部100周年記念 事業の2日目、西中国山地「奥匹見 〜高岳」開通記念登山に山口県在住 の5名が参加。

午前9時、奥匹見峡駐車場(登山口)にて広島支部兼森総務委員長の

司会で開会式が行われる。平山会長を始め本部、山陰支部の会員や地元の参加者など総勢100名あまりで盛会であった。

松島さん(登山隊長)より諸注意、 準備体操の指導の後8班に分かれ登 山開始。野田の百本松に向け急登を ゆっくり登る。野田の百本松から南、 天杉山方面は数回歩いているが、今 日はここから北東の聖山高岳の縦走 路に向け広島、島根の県境を行く。

広島県側はツキノワグマの奥山放 獣の地であり、今まではものすごい 藪で入る人は皆無であっただろう。

今回、分水嶺路査に合わせ3kmあまりにわたり、背丈以上のクマザサの中2メートル中の道を、地元の人たちの協力もあり1日で切り開かれたとのこと、さぞ大変であっただろう。5月にはもっと南の台所原で熊に遭遇したと聞き私たち以上に苦労されていると感じた。

途中スズメバチ騒動があったりまた 高岳山頂で小雨が降り出したりして大 幅に遅れたが、聖湖湖畔の登山口に無 事下山。

広島支部では山口県内に一部未踏査 箇所があるとのこと、協力を約束して 帰途につく。 (内藤 記)

参加者 1 11990原広美 13991 中村昭彦 14079内藤正美 14080原野幸雄 北九389森本信子 槍ケ岳 北鎌尾根登攀記

登山者の拍手で迎えられ登頂

No.14195 和 田 秀 明



北鎌尾根ルートをよじ登り、槍ガ岳山頂に到着

7月22日、17時30分、仕事が終 わり、宇部新川18時21分発の電 車に乗る。

そのまま、新幹線のぞみと、臨時 夜行急行ちくま等を、乗り継いで翌 朝穂高駅に到着。

7月23日、5時頃、穂高駅を乗り 合いバスにて出発。6時中房温泉着。

睡眠不足と、過労、車酔いのため か、気分がすぐれず、しばらく地べ たに横になる。

6時30分、ゆっくりと出発。合 戦尾根を、意識してノロノロと行く。 休憩は合戦小屋のみで燕山荘へ。登 山者は他にも大勢いたが、九割くら い燕山荘泊まりらしい。体力をセー ブしつつ、表銀座ルートを行き、1 3時30分大天井ヒュッテへ到着。



北鎌尾根(下半分)

7月24日、2時半、弁当を食べ 朝食とする。満月の月明かりに雲海。 幻想的な眺めである。3時20分、大 天井ヒュッテを出発。ここから北鎌 へ行くのは、少なくとも6パーティ いるが、広島県岳連の小柄でパワフ ルな女性会員の小田さんと意気投合 し、行動を共にすることとしたので 厳密には単独行ではない。月明かり に照らされた稜線歩きは、以前から やってみたかったことのひとつであ る。新田次郎の「孤高の人」にも、加 藤文太郎が月明かりの雪稜を歩く場 面がある。

4時、貧乏沢入口到着。稜線を乗 越して、急な樹林帯の下降が始まっ た。小田さんは、ヘッドラの明かり を頼りに、先に踏みあとを下ってゆ く。やがてガレの下りとなり空が明 るくなりはじめた。雪渓はほとんど ないが、下降するにしたがい沢の水 量は多くなり、時々樹林帯を巻くよ うにして、6時、貧乏沢出合に到着 した。途中一ヶ所悪い岩にロープが 固定してあった。それにしても、「貧 乏沢」なんて、ひどい名前を付けたも のだ。「秀明沢」なんてどうだろうか。 なんてね。

ここから天上沢をすこしつめ、北 鎌沢出合に到着、いつのまにか沢の 対岸に渡っていて、小田さんの朝食



北鎌独標のトラバースルート

と休憩、水の補給をする。

6時半出発、北鎌沢は少し入った ところで右俣を選ぶ。忠実に沢をつ める。かなり上方まで水が出ていて助 かるが、北鎌コルまで2時間もかかっ た。体力を温存したペースと、休憩配 分だったが。フルーツゼリーをふたり で食べる。

8時半をまわって出発。ゆっくりと 前進し、「天狗の腰掛」へ。前方の2 パーティは、朝北鎌沢出合を出発し た人たちである。独標トラバースルー トを過ぎて、北鎌独標 (2,899m) 到着。 時間は記録していない。前のパーティ は、懸垂下降を多用していたが、こち らはほとんどクライムダウンで、いつの まにか追い越した。

独標からは、ほとんど千丈沢側のト ラバースルートであり、時々稜線通し に登る。稜線に向かってガレを登ると きは、落石を起こさないように細心の 注意が必要である。

独標を過ぎて天候が晴れから、ガ スに変わっていたのだが、にわかに 雨となり、雨具をつける。コケのつ いた岩なんかも摩擦がききにくくな り、滑りやすい。コンパスと、時々 ガスの晴れ間に見える小槍の位置で 見当をつけながら進む。途中、小走 りに逃げる雷鳥を発見。目の上が赤 いので、オスである。



槍ガ岳山頂から北鎌独標を望む

やがて、本峰の取付きに到着。 ここまでで、かなり体力を消耗し、 ヘロヘロである。

小チムニーは直登し、小田さんにロ ープを垂らしたが、あとで巻くことが 可能だったと知った。次のチムニーは、 右フェイスを登る。

最後は、小田さんを先にして、槍ケ 岳(3,180m)に立つことができ、頂上に いた登山者の拍手で迎えられた。

北鎌尾根縦走は、8年振り3度 目である。初回だけは湯俣からの

ルートを採った。

しばらく休憩して、槍ケ岳山荘に 向け下降し、小田さんと登頂を祝し、 握手をして、小屋に泊まった。食事 もすすまず、少しのご飯と味噌汁を いただき、ホットミルクを飲み、就

7月25日、今日も雲海と朝焼け が美しい。別の女性に槍の穂や、氷 河公園の天狗池へ行こうとすすめら

れるが、体力がヘロヘロの私は、残念 ながら断らなければならなかった。

槍沢をおりてゆくと、雪渓歩きなど をして面白く、明神では、明神館のワ インと、嘉門次小屋のイワナの塩焼き をいただく。これらは、上高地を訪ね たときは、絶対に外せないものだ。

予備日がまだあったが、台風7号 接近の報せを聞いて、急ぎ上高地へ 別れをつげる。バスで土砂崩れの迂 回ルートを通って、松本のホテル 泊。風呂で登山服をボディソープ で洗濯。汗と泥で汚れた格好では 新幹線に乗れないからだ。

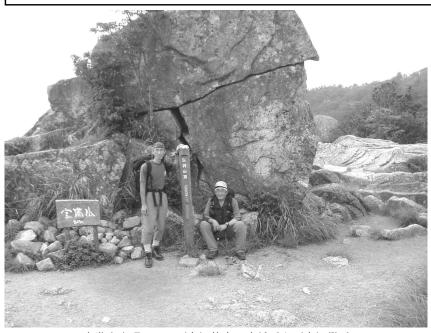
7月26日、台風を避けるように 鉄道を乗り継ぎ、山口に帰る。宇部 の床波駅で途中下車して、前田会員 の和菓子屋を訪ね、車で自宅まで送 ってもらった。

(2005.7.27自宅にて 和田)

日帰り山行二題

① 若杉山~三郡山~宝満山縦走 ② 西山~犬鳴山登山

No.13987 宮 城 尚



宝満山山頂にて (左)筆者の宮城氏と(右)榊氏

①若杉~三郡~宝満縦走

平成17年8月27日(土)晴れ。 JAC北九州支部入会予定の榊氏 と三郡縦走に行ってきました。

篠栗駅を午前7時30分出発。 若杉山~砥石山~三郡山~宝満山 と縦走し、竈神社に午後4時30 分頃到着しました。約9時間ゆっ くりした縦走でしたが、大変蒸し 暑く、疲労困憊でゴールしました。

そして、神社の前の食堂「あさ ひ」にて、オクラの丸焼きをつま みに冷たいビールで疲れを癒して 帰りました。

縦走途中の湧き水「天の泉」も

大変美味かったです。

同行者 No.北九397 榊 俊一

② 西山~犬鳴山登山

もう1ヶ月前になりますが、単独 で西山~犬鳴山縦走した時のことで す。雑誌「green walk」の春 号)84頁を見て、初めて行きました。

犬鳴きダムの奥のキャンプ場駐車 場に車を置き、朝10時過ぎダムの 奥の西山登山口から登山開始。

途中、キャンプ2の団体約30人 (西山ハイキング)を抜いていきま したが、西山直下の峠ところで道を 間違えました。その時、団体を率い るあの山下建夫さんから道を教えて もらい事なきを得ました。

頂上(10:50)で山下さんにお 礼を言って少し話しましたが、エベ レスト帰りなのかちょっときつそう でした。

道も良く整備され、アップダウン も適度にあり、とてもいいコースで した。(16:20下山、16:50駐車場)

犬鳴山の途中でを初めて見る天然 のツチアケビに感動し、脇田温泉に 浸かって帰りました。 宮城

紅葉狩山行記録二題

① 大船山

② 大山

No.14081 塩屋

薫

① 大船山(1.786m)

10月25日 晴れ 無風 *24日久住山樹氷付く。

参加者

中村昭彦CL 塩屋薫 矢野禎孝

行程

5:00 下関関門トンネル~下曽根 ~椎田~耶馬渓~玖珠~四彩ロード ~飯田高原~千町無田~男池~七里 田~今泉登山口8:42着(所要3: 42)標高805m

登山記録

8:55登山口発。暫く林道を歩 き、9:00 七里田分かれ、9:15左上に 登る。九折の道を行き、9:50 岳麓寺 分岐、10:03 前ゼリの標識より左 に登る(右へは風穴、黒岳方面)。 10:35 ススキ道に出る(1.345m)。 ナナカマドの大木を左に見る。11:13 屋根に取り付き (1,390m) 急登の連 続となり木の根、幹の力を借りて あえぎ乍ら登る。振り返ると黒岳 を下に見る高さに出る。(1,590m) 黒岳の紅葉がちらほら見えた。又、 由布岳の双耳峰が雲海上に見えた。 大船山直下の御池に出て、12:15 大船山着。(登り3:20) 8,500歩 登山者多数で賑やか。御池の紅葉 の色付きは悪い。360度の眺望は雲 海のために遠くは見えなかった。

山頂下で昼食タイム。13:25下 山開始、ガラン台に向かう道をジ グザグに下り、入山公碑右に望み、 14:13 鳥居窪 (1, 395m)、14:50 柳が水十字路 (1,110m)。 15:10 ガ ラン台に出て、有氏の湯の上牧野 道のコンクリート道をだらだら下 り(2ゲート)山グミを口にする、 ほのかに甘い。16:00登山口に戻 る。(下り2:35) 12,618歩、計21, 118歩。かなりハードな登山でした。 中村リーダー有難う御座いました。 矢野さん運転ご苦労様でした。今 泉炭酸水を汲み、め組温泉の炭酸 泉で疲れを取る(500円)。瀬の本 ~牧ノ戸~四彩ロード~往路を戻 り、22:00帰関。

*前ゼリの語源をある登山家に 問い合わせたところ、古代朝鮮語 のようで、「深い、厳しい」と言う 意味だとか。語源知っている方情 報下さい。塩屋

九重の黒岳コースには、「前セリ」とか「奥セリ」の呼び名があ りますが、この「セリ」について、山と渓谷の世界山岳百科事典(1971年発行)には、

せり(古語)とは、沢の源頭を登りつめた所にある峰。沢から迫り出して いるように見える峰に、「何沢のセリ」の山名が付けられる。「あたま」「う ら」に同じ。

とあり、念のため「あたま」については

あたま(古語) 頭。谷や沢の源にあたる隆起、あるいは枝尾根が主脈に 結合する個所の隆起が、望見して顕著なものを、谷や沢や枝尾根の名称を冠 し、何沢ノ頭、何尾根ノ頭と呼ばれる用例は多い。ウラ、セリというのも同 じ。塩地谷の頭、真名井沢ウラ、大黒茂のセリなど、みな沢の源頭にそびえ る峰であるが何山、何岳といわれるほど大きな峰ではない。・・・

〈岩科小一郎〉

と書かれていました。また「うら」についても、まったく同じような内容でし た。この説明が黒岳の「せり」にあてはまるかどうかは、分かりませんが、参 考まで調べてみました。他に情報をお持ちの方はお寄せ下さい。

編集人(伊藤の)より

② 大山(1,711m)

期日

11月12日(土)~14日(月) 経路

6:05下関発~益田~浜田~米 子~16:09大山寺白雲山荘着。所要 時間 10:04。走行403 km (休み含む)

参加者

塩屋、矢野、村中、芳本 登山記録

11月13日(日)快晴、無風、 登山口気温4度。7:10僧兵コー ス登山口発。標高770m山頂ま で2.8 km、標高差941 m夏山 登山道に出て7:30一合目(875 m)、7:51二合目(985m)、8:13 三合目(1,070m)、8:25四合目 (1, 145m)、8:40 五合目(1, 245m)、 9:00 六合目避難小屋着小休止。 9:20 発、9:28 七合目 (1,445m)、 霜柱が見られた。9:52八合目 (1,575m)、気温10度、無風のた め暖かい。9:54木道に取り付く。 10:04 九合目、10:15 山頂着。 一等三角点にタッチ。快晴のため に360度最高の眺望、多数の縦 走者が見られた。*禁止区域なの に危ない危ない。避難小屋でお茶 タイム。

11:15 発。 11:44 六合目避難 小屋着、昼飯タイム。12:45発。 12:52 元谷への分岐を右に下る。 急坂の木道や木の階段を、時には 蟹歩きで慎重に下る。13:20元 谷堰堤で皆を待ち、13:35揃っ て作業道を下り、14:15 大山寺 に立ち寄り、14:30 白雲山荘に

無事下山。

登山タイム

登り2:45、下り2:59 (元谷 経由)。18,600歩。紅葉の見頃は 終わっていたが、今回は快晴、無 風と最高の登山日和に恵まれて大 変楽しい山行でした。皆様お疲れ 様でした。

登山中に北壁が崩落する音が響 いていた。又帰路に西側から見えた 山も崩落が進んでいた。 14:52 発、 15:56 湯原着。たねや旅館泊。 14 日湯原発、蒜山高原~帝釈峡 ~庄原~中国道~17:05下関着、 解散。

(参考)

日本山岳会編著の「新日本山岳誌」(2005.11.15発行)では、大山 は別称、伯耆大山、伯耆富士、出雲富士とも呼ばれ、標高は、弥 山で1,709m。剣ヶ峰で1,729mと記載されています。

編集人(伊藤Q)

日本山岳会創立100周年記念節目の年に

カナディアン・ロッキーの旅

No.13643 関 口 興 洋



今年の9月14日~22日、学 生時代の山仲間とともにカナダの ロッキー山麓の旅をした。

商業ベースのツアーでは時間に 制約をうけるので、自分たちで計 画し余裕のある旅程を組んだ。

お決まりのコースであるが、 バンフ・ジャスパー国立公園を めぐった。

バンフを拠点に各地をめぐっ たが、一番印象的なコースは、 LARCH VALLEYのトレッキングであ った。

テン・ピークスを借景にしたエ メラルド・グリーンのモレーン・ レイクを基点に約5時間の行程で ある。2400mの森林限界手前には LARCH(唐松) の群落があり、黄色 に染まった枝葉に雪がまといつき 抜けるような天空とのコントラス トが見事である。

今年は普段より雪が早いとのこ とであった。マウント・テンプル (3543m)の麓で、氷蝕されたテン ・ピークスの豪華な山容を眺めなが ら昼食は最高のご馳走であった。

バンフでゆっくり過ごした後、 有名なコロンビア大氷原の末端の アサバスカ氷河などを見物しなが ら北上しジャスパーに到着。

ここの博物館は、一般的な博物 館ではなく、いわゆる山岳博物館 であり、1925年に未登峰のマウン ト・アルバータ (3619m) を初登頂 した槇有恒パーテイーにまつわる 種々の記念品がガラスのケースに 収められ展示されている。

80年前の偉業であるが、日本 山岳会創立100周年記念の大き な節目でもあり、今年参観できた ことは、大変有意義であった。

こういう私的な興味に基づく単 独行動は、通常のツアーではなか なか許されないことであろう。

10月15日の100周年記念祝 賀晩餐会終了後、たまたま招待客 の一人であるカナダ山岳会のキャ メロン・ロウ会長にご挨拶し、ジ ャスパーの博物館を訪れた旨話し たところ、大変喜んでおられた。

機会がありましたら、是非一度 訪れてください。

以上

◇◇◇報告・お知らせなど◇◇◇

東海支部の総務委員会に参加して(3)

精力的な東海支部の発行物について

No. 10448 江 頭 精 一(前事務局長)

今回は東海支部における発行物 に関して少し書きます。

支部で発行している物として は、東海山岳、東海支部報、JA C-TOKAI-GUIDE、支部 友会だより、海外遠征報告、猿投 のもり通信など各種、多様なもの があります。それぞれについて簡 単な説明をします。

東海山岳

昭和39年に1号が発刊され、 現在は9号まで発行されていま す。編集にあたっては、専門に編 集部会が設置され、支部員のあら ゆるジャンルの原稿があつめられ 編集されています。編集期間も数 年に及びます。

最近の東海山岳9号は、554 ページでぶ厚いものです。(A5版) 装丁も大変立派であり東海山岳 の文字は渋い味を出しています。

この東海山岳は各支部会員には 2,000円 (定価3,000円)で配 布され、また日本山岳本部、各支 部にも配られています。各支部よ

りはお礼と、本の内容を賞賛する 手紙等が東海支部ルームに届いて います。

東海支部報

これは、支部の活動、原稿、報 告等を行う機関紙です。B5版縦 で通常17ページ程度あります。 年4回程度発行しています。

編集は、総務委員の星事務局長 が中心になり支部のルームで編集 委員が集まり作成しています。原 稿集めが大変でいつも締め切りぎ

りぎりの深夜まで頑張っていま す。印刷は支部友に浅野印刷の社 長がいますので格安で作成して戴 いています。

私も、支部報100号の編集に 参加させて戴きました。一番大変 なのは、支部報の発送作業です。 これは後に書きます支部友だより と一緒に発送することで、手間と 郵便料金を軽減させる工夫をして います。

JAC-TOKAI-GUIDE

名前のとうり支部のガイドをし ている、B5版横型で74Pの冊 子です。いつも持ち回れる用横型 でコンパクトに製本してあります。

内容は組織の役員名、事業内容、 年間カレンダー、支部員、支部友

名簿、蔵書目録、出版目録、支部、 支部友規約などが盛り込まれてい ます平成16年度のガイドブック は私が作成致しました。

支部友会だより

支部友の機関紙です。B5版縦 で緑色の4Pの見開きです。

内容は集会の案内、役員からの メッセージ、山行記録、会務報告、 そしてメインは山行の案内です。 毎月2回程度、3か月分くらいの 案内が載っています。山行地域は 東海近郊から、地の利を生かして 中央アルプス、北アルプスetcな ど羨ましい限りです。

山行には星の数のグレードがつ いていて、大変ユニークです。ま た、難しい山行きには事前のトレ ーニングに参加しないとだめだと か、リーダが選考して参加を断る 場合もあるようです。これは、安 全面と会友の活動に参加しないピ ークハントのみの参加者は排除す るとの考えのようです。

海外遠征報告

当然、海外遠征後に発行されて います。最近ではローツエ南壁登 山隊、殆ど2~3年に1回行って いる、インドヒマラヤ登山隊など

まだ書くことはありますが、長 くなるのこの辺にしておきます。

北九州支部においても5周年も 終わったことなので、支部報の準 備に取り組まねばならないと思っ ています

法華院温泉山荘 大水害に遭う

「平成17年7月10日、12時頃から強く降り出した雨 は、時間を追う毎に激しさを増し、寝ていても横の鳴子 川を岩が流れていく。ゴト、ゴトという音で目を覚ます ようになっていた。みし、みしと音をたてる家、まさか 川の水位があがり今にも家を飲み込まれようとしている とは、考えもしなかった。みしみしみしみし、3時35分 連続する音に家内と私はとびおきた。電気をつけるが電 気がつかない。必死に懐中電灯を探し窓から外を照らす と、黒く濁った川は渦をまきながら、玄関扉をめがけせ まってきていた。

このままでは、家ごと流される。とっさに、はわきだ しのサッシを開け、玄関扉を開けた。流れ込む泥水は、 一気に家に入り込み、サッシから出て行く。

廊下を流れる泥水。座卓の上で、家内と次女はその光 景を呆然と見ていた。私も、流れ込む泥水の中で、呆然



院温泉山荘 右端に流れてきた樹木等のゴミがまだ残っていた

と立ち尽くしていた。

それから、夜が明けるまでの時間の長かったこと。 懐中電灯で照らすぐらいでは全体的な状況は把握で きず、とにかく水面の高さから水位が4メートルほど 上昇し、山荘と観音堂をつなぐ橋が流されている事が 確認できた。

観音堂は孤立状態にあり、水位が下がるまでは山荘 に行けないことが確認できた。この時点で、山荘にも 土砂が入り込んでいるとは、予想ができなかった。・

(法華院 EXPRESS vol. 043 2005 / 08 / 02 から)

この様子は、本年7月10日、九州を縦断した台 風の大雨で被害に遭った、九重の法華院温泉山荘の メール新聞、法華院 EXPRESS 43号の内容で、 最初の一部分です。この続きは、法華院温泉山荘の ホームページを開いてもらえば、EXPRESS 43 号と44号に詳しく書かれています。

この時に同時に被害を受けたのは、筋湯温泉と十 三曲がりで、十三曲がりはいまだ通行止めになって います。

法華院山荘は、現在営業を再開していますが、い まだ補修工事をしており、1週間前の11月中旬は、 温泉廊下の床の張り替え工事をしていました。又、 山荘下の橋も被害を受け、現在工事中です。完全 に山荘や坊ヶツルが復旧するには、未だ時間がか かりそうです。

> No.13520 西村信子

登山保険に入りましょう

No.13465 大楠益弘

「JAC北九だより」では何回もご連絡しています が、山岳保険、スポーツ保険の加入状況が思わしくあ りません。万が一の場合、入院治療費はもとより捜索 費用、救助費用は全く自己負担となります。

他支部の状況は、保険未加入者には山行参加を認め ない所が多く、当支部でもその方針で臨むことになり ます。いずれ各会員に対し保険加入状況をお尋ねし、 全般的な実態調査をいたします。

スポーツ安全保険は、JAC北九だより25号でも お知らせしていますが、来年3月までの期限ですが現 在でも受け付けています。未加入の方はぜひご加入下 さい。

森林保全巡視員 40名となる! 九州各支部も委嘱申請中

グリーンレンジャーの会会長 No.13722 藤田 傳

当支部巡視員は、2年前に九州森林管理局から 委嘱を受け、巡視活動をしてきましたが、30名の 内28名が更新手続きをし、更に12名が委嘱を受

けることになりました。これから2年間レンジャー として巡視活動をしてゆくことになります。熊本支 部では、14名が委嘱を受け今月から活動に入り、 追って宮崎、東九州各支部が委嘱を受けることにな っています。継続して委嘱される当支部のメンバー は次の通りです。

秦野一彦 大庭常生 関口興洋 末吉史忠 大楠益弘 原 広美 村上 強 伊藤久次郎 藤田 傳 西村信子 板倉健一 浦田和夫 磯野文雄 大谷 城 太田 満 馬場基介 西村一利 中村昭彦 大城戸昌敏 西村俊二 高畠拓生 宮城尚志 室津健次 山田武史 横山洋子 片山俊昭 片山礼子 楠田和彦 以上28名

新しく委嘱を受けるメンバーは次の方々です。 江頭精一 兼光 功 篠田勝行 森永義忠 舛木 隆 三宅清和 藤田 優 浜松礼子 高城季美子 丹下 治 丹下香代子 野嶋 豊 以上12名

なお巡視員研修会を11月26日(土) 16:00から 門司港めかり山荘にて実施します。

旧メンバーの方は、現在の身分証明書を持参し て下さい。

山行計画のご案内

1月の山行 野間岳(591m)と開聞岳(922m)

平成18年1月14日(土)~15日(日) 集合場所 14日 午前7時 小倉駅北口広場

概算として15,000円 費 用

募集人員 20人

1月14日 小倉~野間岳~国民宿舎かいもん荘(泊)

1月15日 かいもん荘~開聞岳~かいもん荘(昼食・入浴) ~池田湖散策~小倉

リーダー 大楠益弘・サブリーダー 西村信子

申込先 西村信子まで 〒824-0121 京都郡豊津町豊津1100-3

ハガキ又はFAXで。TEL(FAX)0930-33-4618

12月17日 切

編集後記

- 今回は、私のいろんな行事のため、 会報発行が遅れましたこと、誠に申 し訳ありませんでした。
- 前号から写真が良くなっています。 これは、わが会員で印刷屋さんの内 藤正美氏の好意により、印刷をして 頂いたものです。今後もよろしく御願 いしたいと思います。

そして、さらに読みやすくするため、 文字も標準字体から少し線が太めの字 体に替えました。

○ 今年は、私にとって100周年記念に 恵まれた年でありました。先ずは日本 山岳会100周年、夏の北アルプス白馬 山荘100周年、更には自分の所属する 美術団体、太平洋美術会100周年など。

他にないかとインターネットで調べ てみましたら、あるある、古賀政男生 誕100周年、日本海海戦100周年、ラ イト兄弟100周年、日本大学100周年、 水道通水100周年、キュリー夫妻ラジ ウム発見100周年・・などなど、もの すごい数の100周年記念がありました。

伊藤Q

○山の原稿は

事務局 (関口事務局長) 又は 〒826-0032 田川市西平松11-8 伊藤久次郎までお送り下さい。 Eメールアドレスは

nkchb785@ybb. ne. jpです。 電話・Faxは、0947-42-2772 (IP電話 050-1499-2772)



毎月第4水曜日 11月のサロンは、中止 12月のサロンも、中止

時間 午後6時30分から 場所 小倉北区魚町「コール天」 (魚町銀天街、酒房武蔵より 西へ約30m)

費用3,000円前後(ワリカン制です)

記念バンダナ

日本山岳会創立100周年記念 及び北九州支部創立5周年記念

好 評 販 売 中



濃グリーンと紅色 2 種 事務局にて1枚至1,000